



やるきほんききさき 木佐木

神奈川県議会議員
日本共産党

2024.11.20
木佐木ただまさ news
発行：党横浜北東地区委員会
横浜市鶴見区潮田 3-147-6
TEL：045-511-1021

Profile
 ▶1984年 山口市出身
 ▶鶴見区馬場在住
 ▶神奈川大学法学部卒
 ▶よこはま健康友の会会長
 ▶横浜東民商顧問

避難時の食事の質を底上げしていく県の支援を

11月1日、決算特別委員会の審査で「神奈川県災害時の食糧備蓄」について取り上げました。

避難生活における居住環境については命が守られるだけではなく、プライバシーなど種々の配慮が求められるようになるなど避難をためらわれないような避難生活の環境整備の取り組みが進められてきていると思います。避難所の食事に関する課題についても、医学的・栄養学的見地からのエビデンスが蓄積されてきているようで、エビデンスに基づき、様々なガイドライン、マニュアル等が作成されているとのことですが、しかし、イタリアや米国などと比べて食事の質が低いという指摘があります。避難生活の食事については、ただ食べられるだけではなく、ホッと一息つけるような温かい食事の提供が必要だという課題意識のもと質問に臨みました。

県の食糧備蓄の考え方は

Q. 本県の食糧備蓄についての考え方と量について
 A. 国からの支援が見込まれる発災後3日間について独自に活動ができるように表のとりの種類と数量を備蓄している。

Q. 能登半島地震では仮設住宅に入居すると食事支援が打ち切られるケースが頻発し、「食糧難民」が問題となった。本県において、仮設住宅に入居した被災者は食事支援の対象から外れることになるのか
 A. 被災者が煮炊きや食事ができない状況などがあれば国や市町村と協議して対応を検討する。

Q. 石川県では、住民等からの要望を受けて県の備蓄米を被災者に拠出したとのことだが、本県でも

資料 3-8-1 (危機管理防災課)
 食料・飲料水備蓄状況一覧表
 令和5年4月1日現在

区分	乾パン(食)	767米(食)	インスタント麺類(食)	卵パイン(食)	粉ミルク(kg)	水(ℓ)	缶詰(缶)
市町村	1,860,000	232,500			3,250	658,000	68,916
横浜市長	178,560	197,150		44,640		796	34,260
相模原市長	48,900			148,200			5,832
平塚市長	8,000	71,045		12,300	142		86,021
鎌倉市長	62,500			252,420			32,268
藤沢市長	72,393			435,700	602		30,052
小田原市長	29,750			128,740	349		1,800
茅ヶ崎市長	31,289				25		11,850
逗子市長	43,780	15,150			54		19,128
三浦市長	43,900				12		2,160
秦野市長	76,800				220		24,792
厚木市長	102,000	32,640		55,824	67		16,164
大和市	85,985	112,425			61		19,698
伊勢原市長	19,850			52,740			9,156
海老名市長	111,850		30,020		226		19,169
座間市長	92,500						10,125
南足柄市長	15,400			4,932	5		720
綾瀬市長	41,880			32,564	38		9,366
葉山町	25,427			16,800	43		7,216
寒川町	47,100						
大磯町	16,850				4		5,016
二宮町	136	91		420	4		2,820
中井町	7,560	7,770		1,550	200		1,680
大井町	12,500			6,000			692
松田町	17,250						5,268
山北町	4,731			5,800			2,400
開成町	60	12,700		1,080			
箱根町	6,312	14,400			20		6,600
真鶴町	806	14,300			0		5,016
湯河原町	29,411			0	26		0
寒川町	1,300		9,600		2,520		9,600
清川町	4,800				40		7,688
市町村計(A)	2,093,199	1,487,672	39,620	1,221,930	6,184		1,113,383
県(B)	323,068	435,368	17,222	105,153	4		485,939
合計	2,416,267	1,923,040	56,842	1,327,083	6,188		1,599,322

【神奈川県地域防災計画 資料より】

備蓄している食料を被災者に拠出することができるのか

A. 市町村の備蓄が不足するというのであれば県の備蓄を拠出することはある。

Q. 避難生活が長期化すると温かい食事のニーズが高まる。大量に食糧の備蓄をするためには長期保存に適したものにならざるを得ないが、冷たいものや炭水化物に偏る。県として栄養バランスや被災者のニーズに応える支援を。

A. 様々な事業者との協定や国や広域連携によって食料の調達し市町村を支援していく。

これまで避難生活は我慢をしなければならないものという前提があったように思います。しかし、避難をためらわれないでいい環境やもう一度立ち上がることができるようにしていくという目標がこれからの支援には必要ではないでしょうか。

質問の動画はこちらからご覧ください→

